## S-plus 版 BECON-EEM の R への移植方法

S-plus 版のソースコード:

Béguin, Cédric,, Beat Hulliger (2003). Robust multivariate outlier detection and imputation with incomplete survey data, EUREDIT Deliverable D4/5.2.1/2 Part C http://www.cs.york.ac.uk/euredit/results/Results/Robust/Part%20C.zip, pp.176

BECON-EEMのコードは、PDFファイルの176~187ページ。

- ① メモ帳など R で使うエディタ(行番号が表示されるものが望ましい)に該当部分のコードをコメント行なども含めてすべてコピーペーストする。総行数は 767。
- ② ページのフッターのページ番号(176-186)とヘッダーの" ROBUST MULTIVARIATE OUTLIER DETECTION AND IMPUTATION"が並んでページ毎に入っているので取り除く。作業後の総行数は、11 ページ×2 行減って 745。
- ③ 以下の場所の二乗の記号「^」が文字化けしていれば修正する。[xx]は行番号を示す。
  - [86] return(sum( $w*(x-mean)^2$ )/(sum(w)-1))
  - [296] apply(sweep(data,2,EM.mean)^2,1,sum,na.rm=T)\*p/(p-apply(is.na(data),1,sum)) [492] test <- (c.np+c.hr)^2\*chi.sq
  - ※ ファイルをたとえば C ドライブの R というディレクトリに"BEM.r"という名前で保存し、R の source 関数で以下のように読み込むと、その際の文法チェックでこれらの箇所がエラー表示される。

source("c:/R/BEM2.r")

④ この他、R と S-plus での相違により、以下の三か所を修正する。

- [57] #
- [58] # Does not accept missing values
- [59] #

■ (直後に追加)

oka.kakeru <- function(x,w) x\*w

# メモリ使用抑制用

移植: 岡本正人 文書作成: 和田かず美